

# 県民まちなみ緑化事業（第3期）評価・検証（案）

- 兵庫県では、都市における環境の改善や防災性の向上などを目的とし、県民緑税を活用し、県民による植樹や芝生化などの緑化活動を支援する県民まちなみ緑化事業を実施している。
- 当事業の財源である県民緑税は5年間の時限的措置で、現課税期間(第3期:H28~32)が平成32年度で最終年度を迎えることから、第3期事業の効果を明確に分かりやすく示せるよう、評価・検証を行う。

### 第2期事業から見てきた課題

- 人口集中地区の緑地率 23.3%(H25 緑被率調査)—緑地率の低い人口集中地区での緑化が必要  
(神戸市 22.4%、尼崎市 14.6%、西宮市 18.2%、芦屋市 20.9%)
- 三宮駅周辺地区(神戸市)、姫路駅周辺などの再整備—駅周辺等の公共空間緑化、都心緑化プロジェクトへの対応が必要
- 維持管理不良の箇所が約1割存在する(知識不足、団体活動力低下)—維持管理の支援が必要
- 子供が活動的で心身ともに豊かになる教育環境の整備の要請—豊かな子育て環境の創出に資する緑化が必要

### 第3期事業における取組

- 人口集中地区の緑化を優先的に推進
- 「大規模都心緑化」のメニューを新設
- 専門家講習会の受講を義務化
- 校庭の芝生化の推進

目標・指標の設定

### 第3期事業の成果と課題

#### ○事業効果

##### 1. 環境効果

(1)ヒートアイランド現象の緩和

- 地表面温度の低下(サーモグラフィ調査 H27年 8, 9月)  
校庭の芝生化-20℃、駐車場の芝生化-15℃、屋上緑化-25℃
- 緑陰形成による体感温度低減
- 涼しさの実感(アンケート調査)  
夏場涼しくなったと実感する割合  
第1期 38%、第2期 44%、第3期 33%

(2)二酸化炭素低減効果(事業実績より推計)  
二酸化炭素吸収増加量  
第1期 420トン/年、第2期 310トン/年、第3期 335トン/年

(3)その他の環境効果(防塵、大気浄化、交通騒音低減効果等)

##### 2. 景観効果

- 緑視率を用いて効果を検証
- 景観向上を実感する割合(アンケート調査)  
第1期 77%、第2期 81%、第3期 86%

##### 3. 防災効果

- 都市での水害発生リスク低減効果(事業実績より推計)  
雨水浸透面積の増加:第1期 11ha/年、第2期 11ha/年、第3期 12ha/年
- 樹木による延焼防止効果、建物倒壊防止・落下物飛散防止効果

##### 4. その他の効果(緑の活用による波及効果)

- 環境学習、教育環境向上、コミュニティ形成効果等
- 心理的効果(県民モニター調査 H26)  
見る人の心をなごませる割合:第2期 55.6%

#### ○第3期事業の目標・指標の達成状況

1. 住民団体による緑化活動の推進【600団体/5年】—進捗率 98%(588団体)
2. 校庭の芝生化の推進【250校庭/5年】—進捗率 29%(72校庭)
3. 人口集中地区における緑化面積【50ha/5年】—進捗率 37%(18.7ha)
4. 大規模都心緑化の推進—補助実績:1件、創出緑地面積:2,547㎡
5. 適切な維持管理の推進—維持管理良好 83.2%、不良 16.8%(H30調査)

#### 【参考指標】

- ◎地域創生戦略推進に係るアクションプラン—進捗率 51%(128件)  
校庭等の芝生化の推進(子育て空間の芝生化の推進)【H32までに250件】
- ◎活力あるふるさと兵庫実現プログラム—進捗率 53%(26.5ha)  
市街地における新たな緑化面積【H32までに50ha】
- ◎ひょうご花緑創造プラン  
市街化区域の緑地割合3割の維持(参考)H25:30.6%  
人口集中地区の緑地割合 24.2%の確保(H32)(参考)H25:23.3%

→H30 緑被状況調査により今後把握予定 ※進捗率はH31.1時点

#### ○費用対効果(第2期の効果を参考記載)


1. 環境・景観面の費用対効果(41億7,500万円)
  - (1)ヒートアイランド緩和機能:5億7,500万円
  - (2)二酸化炭素低減効果:500万円
  - (3)地価の変動を指標とした環境・景観改善効果:35億9,500万円
2. 防災面の費用対効果(37億3,900万円)
  - (1)都市水害防止機能:21億1,700万円
  - (2)延焼防止機能:16億2,200万円

第2期投資額 22億3,400万円

↓

約3.5倍


第2期効果額(1+2) 79億1,400万円



延焼を防いだクスノキ(神戸市)

### 環境を取り巻く近年の状況

1. 平均気温の上昇と将来予測<sup>※1</sup>
  - 日本 約1.16℃上昇
  - 将来予測 (温暖化対策しない場合:3.4~5.4℃上昇) / (対策した場合:0.5~1.7℃上昇)
  - 県神戸 1.3℃、豊岡 1.88℃、洲本 0.96℃上昇
  - 将来予測 (温暖化対策しない場合:約3.5℃上昇) / (対策した場合:約1.0℃上昇)
  - (1898~2015年までの気温上昇の割合から算出)
2. 豪雨(大雨)の発生回数の増加<sup>※2</sup>
  - 220回(1976年) → 257回(2016年)
  - (1976年~2017年で10年あたり20.5回増加)
3. 熱中症救急搬送者の増加<sup>※3</sup>
  - 道路が冠水している様子(神戸市)
  - 日本 52,984人(H29)→95,137(H30) 42,153人増
  - 県 2,711人(H29)→4,599(H30) 1,888人増
4. 県民の意識の変化<sup>※4</sup>
  - 温暖化の影響を感じている人が増加



地球温暖化の影響が現れていると思う事象(H28年度第2回アンケート調査)

### 今後の展開方向(次期事業の方向性)

- 住民団体における緑化活動の支援の継続
- 暑熱・災害対策に資する緑化の推進
- 市街地における緑化の推進
- 子育て支援に資する緑化の推進
- 適切な維持管理の推進

反映

ひょうご花緑創造プランの見直し

※1、4・・・「兵庫県地球温暖化対策推進計画」 ※2・・・出典 気象庁ホームページ ※3・・・「平成30年(5月から9月)の熱中症による救急搬送状況(総務省消防庁 報道発表)」